

麻疹(はしか)の流行について(5)

埼玉県や東京都、千葉県を中心に関東地方で麻疹が流行！
 横浜市でも大学と高校で休講等がありました。
 東京都では、大学等で集団発生が続いています。

麻疹(成人麻疹を除く)の流行状況については、全国で約3000か所、横浜市では84か所の小児科診療を行っている指定届出医療機関(小児科定点)からの報告により、把握しています。

成人麻疹(15歳以上)の流行状況については、全国で約450か所、横浜市では3か所の基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)からの報告により把握しています。

小児科定点および基幹定点からの患者報告は、月曜日から日曜日までの1週間ごとに行われており、1週間単位での集計結果を、ホームページ等で、公表しています。

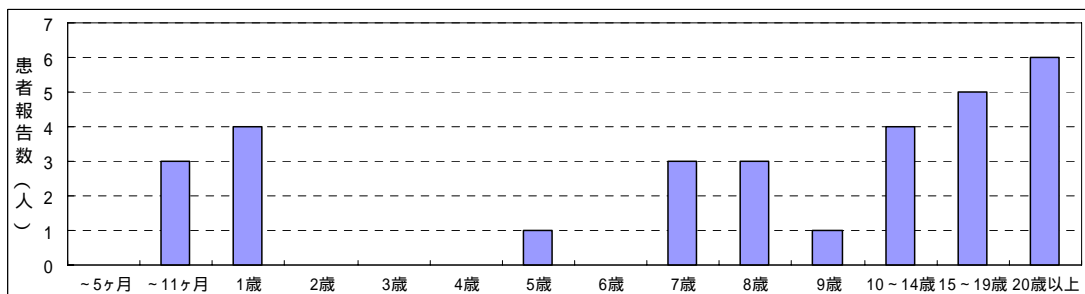
横浜市では、小児科定点からの報告は、

第20週(5/14～5/20) 7人(1歳1人、7歳1人、8歳1人、10～14歳1人、15～19歳2人、20歳以上1人)

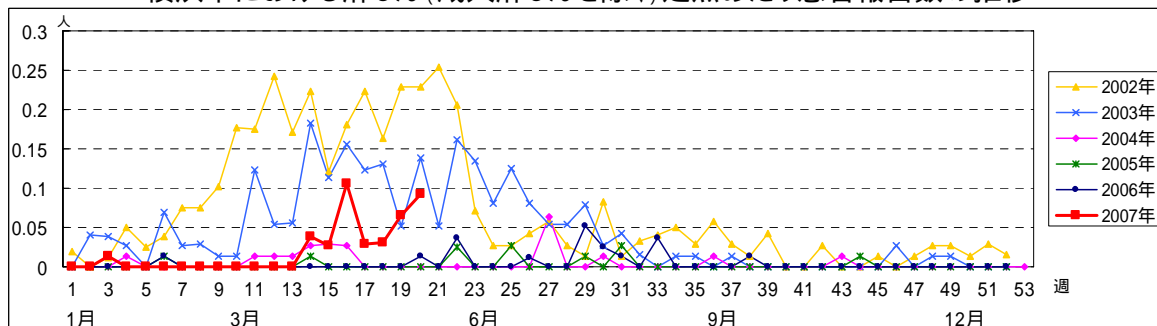
と、第14週以降、発生が続き、2007年の累計報告数は30と、2006年の年間報告数16の倍近くになりました。

* 15歳以上の患者が、小児科定点を受診する場合もあり、ご報告いただいたものは計上しています。

横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)年齢別患者報告数 (2007年1～20週)



横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)定点あたり患者報告数の推移



麻疹は空気感染(飛沫核感染)、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示す疾患で、その感染力は極めて強力です。

患者との直接対面接触がなくても、同じ空間を共有することでも、感染する場合があります。

免疫のない人が感染した場合、ほぼ全員が発病します。

感染から発病までの潜伏期間は、10日前後です。(10～12日)

また、発疹が出現する4日前くらいから、他の人にうつります。

感染力が強いのは、最初の発熱～発疹出現36時間後まで、発疹出現5日後まで、ウイルスが排出されます。

学校保健法での出席停止の基準は、解熱後3日を経過するまでとなっています。

発病した後の特別な治療はなく、症状に応じた治療が行われます。

ワクチンによる予防が最も重要です。

麻疹が疑われる症状があるとき、周囲に麻疹の患者がいて、発熱など感染の可能性があるときは、登校や外出は避け、早めに医療機関を受診しましょう。

受診の際は、医療機関にあらかじめ症状等を伝えて、指示に従いましょう。

予防接種が済んでいない方は、早めに接種しましょう。

麻しんは、全数報告ではなく、定点からの報告のため、実際の発生数は、もっと多い可能性があります。

2007年 全国と関東における週別麻しん患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全国	8	11	13	9	7	18	7	22	5	8	10	6	25	30	34	73	108	91	215	210
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	2	5	4	4	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	8	4	6	18
群馬県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	3	-
埼玉県	4	4	4	3	3	8	2	11	2	5	1	-	11	12	9	14	16	24	35	27
千葉県	1	1	3	2	-	-	1	3	-	-	2	-	1	-	1	11	16	9	56	28
東京都	-	-	3	-	-	1	-	1	-	2	2	4	9	7	10	14	12	14	31	35
神奈川県	1	-	1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	1	4	3	10	6	4	22	18
横浜(再掲)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	8	2	2	5	7
川崎(再掲)	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	4	2
県域(再掲)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	2	13	9

2007年 全国と関東における週別成人麻しん患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全国	1	1	3	1	2	1	1	1	2	-	9	9	13	5	15	41	25	29	58	70
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	1
埼玉県	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	2	5	-	-	4	5
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	3
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5	3	8	2	7	12	15	21	21	21
神奈川県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	2	4	5	2	1	2	9
横浜(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	5	2
川崎(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	2	3	1	1	-	4
県域(再掲)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	3

< 集団感染の発生を防ぐために >

大学等の集団においては、発生に備えて、学生や職員の、麻しんワクチン接種歴や麻しん既往歴を確認しておきましょう。
 未接種者や、未罹患者には、ワクチン接種を勧奨しましょう。

迅速な対応が必要になるので、1例でも発生した場合は、校医や福祉保健センターに相談し、対策を検討しましょう。

患者発生時には、全学生や全職員に毎朝検温を実施してもらい、37.5度以上の場合は、外出を控えるように指導しましょう。

感染拡大防止のため、必要に応じて、休校やワクチンの接種を検討しましょう。
 潜伏期間も考慮して、休校は、最低10日間を考えましょう。

< 修飾麻しんについて >

不完全な免疫を持ち、感染した場合、典型的でない軽症の麻しんを発症することがあります。麻しんワクチン接種後数年を経過し抗体が低下したり、1歳前で母親由来の抗体が残っている場合で、潜伏期が14～20日、前駆期の症状が軽く、発疹が急速に出現、経過も短く、色素沈着が弱い等、麻しんと診断するのが難しい場合もありますが、麻しんとしての伝染力がありますので、注意が必要です。

< 参考資料 >

- ・麻疹(はしか)について (横浜市衛生研究所)
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measle1.htm
- ・横浜市感染症発生動向調査週報一覧 (横浜市衛生研究所)
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html
- ・麻しん Q&A (東京都健康安全研究センター)
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/measles/mashin/mashinqanda.html>
- ・疾患別情報 麻しん (国立感染症研究所)
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>
- ・「千葉県麻しん対応マニュアル」(千葉県健康福祉部)
<http://www.phlchiba-ekigaku.org/measles/Manual%20for%20measles%20of%20Chiba%20Prefecture.pdf>